



成層圏プラットフォーム予備実験

ロープなし飛行に初成功

NALなどが遠隔操縦で

大樹・多目的航空公園

【大樹】国が計画する無人飛行船による通信放送・地球観測システム「成層圏プラットフォーム」の研究開発を行っている独立行政法人航空宇宙技術研究所(NAL)が、多目的航空公園の滑走路上空を、遠隔操作で飛ぶ25級級の無人飛行船

【大樹】国が計画する無人飛行船による通信放送・地球観測システム「成層圏プラットフォーム」の研究開発を行っている独立行政法人航空宇宙技術研究所(NAL)が、多目的航空公園の滑走路上空を、遠隔操作で飛ぶ25級級の無人飛行船

この日は午前5時ごろ、軟式飛行船(全長24・2級、全幅6・5級、全高8・7級)を格納庫から運び出し、同5時40分、朝焼けで赤く染まった空に、総重量約600キの機体がふわりと浮かび上がった。推進動力のプロペラ2基を回転させ、同公園の滑走路上空10-20級を自

NALの実験担当者・佐々修一工學博士は、この日の成果を「テザー(ロープ)なしの状態でも飛行させることができた。途中で遠隔操作による機体の方位変更も行った」と説明した。同基礎試験は8日まで。最終的には事前にプログラムしたコースを周回飛行させる予定。

力で西から東へ飛行し、次第に加速。機体が南側に多少それるなどしたため、ロープを下ろし、停止させた。この日の飛行は数分間で終了。復路は地上けん引で格納庫まで運搬した。

成層圏プラットフォーム計画は、高度約20級の成層圏に、全長約250級の無人飛行船を浮かべ、人工衛星のように通信・放送、地球観測に役立てようとする国の計画。(浅井文人)